

インフルエンザワクチンの接種を受ける前に

(受ける前に必ず読んでください)

1. インフルエンザについて

インフルエンザは、ウイルスの感染によっておこる呼吸器感染症です。患者さんの咳やくしゃみと共にインフルエンザウイルスが空気中に漂い、手についたりして気道に感染します。典型的な症状は、発熱、頭痛、腰痛、関節痛、全身倦怠感、のどの痛みなどです。通常は1週間程度で回復しますが、肺炎、気管支炎、脳症、心筋症などの合併症が出ることもあり、高齢者や呼吸器・心臓の慢性疾患を持つ人は十分注意する必要があります。

日常生活の中で、うがい・手洗いをしっかり行い、栄養と睡眠を十分とることも予防のために必要な対策です。

2. ワクチンの効果と副反応

インフルエンザワクチンは、発症予防ではなく重症化予防を主な目的としています。ワクチン接種を行うと、インフルエンザにかかりにくくなる、あるいはかかっても症状の重症化を抑えることができ、合併症や死亡の危険を抑えられるということです。

ワクチン接種に伴う副反応として、注射部位の発赤・腫れ・疼痛、全身症状として発熱・悪寒・頭痛・関節痛などがありますが、通常2、3日で消失します。まれに、ショック、じんましん、呼吸困難等が現れることがあります。

3. 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱している人（37.5℃以上）
- ② 重い急性疾患にかかっている人
- ③ インフルエンザ予防接種に含まれる成分または卵等によって、アナフィラキシーショックを起こしたことがある人
(アナフィラキシーショックとは、接種後30分以内に起こるアレルギー反応のことで、顔面浮腫、全身のじんましん、呼吸困難、めまい、吐き気等の強い全身症状のこと)
- ④ 過去のインフルエンザ予防接種で、接種後2日以内に発熱のあった人、及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状のあった人

裏面に続く

4. 接種前に医師に相談する必要がある人

- ① 心臓、腎臓または呼吸器の機能に、身の回りの生活が極度に制限されるような障害がある人
- ② ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害のある人

5. 他のワクチンとの接種間隔

生ワクチンの接種を受けた方は、接種した日の翌日から27日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた方は、接種した日の翌日から6日以上間隔をおいて接種してください。接種ワクチンが不明の方は予約の際、予防接種の名前を医療機関に伝えるようにしてください。

6. 予防接種後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分くらいは、急な副反応がおこることがあります。医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザワクチンの副反応の多くは、24時間以内に出現するので、この間は体調に注意しましょう。
- ③ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射部位をわざとこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日は通常の生活で構いませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

7. 副反応がおこった場合

予防接種の後、まれに、副反応がおこることがあります。また、予防接種と同時に他の病気が、たまたま重なって発症することがあります。予防接種の後、注射部位のひどい腫れ、高熱などの症状があったら、接種医のもとで必ず診察を受け、健康増進課へも御連絡ください。

わからない点がある時は、健康増進課までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

北杜市役所 健康増進課

電話 0551-42-1335